

令和元年度 伊勢原市転入・転出に関する アンケート調査 概要版

【調査の目的】

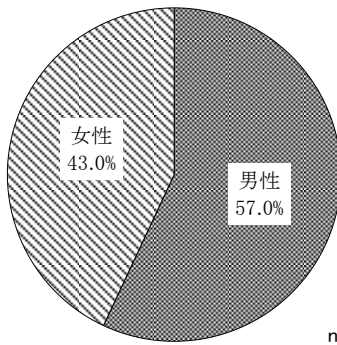
市内への転入者及び市外への転出者を対象に、転入・転出理由及び本市に対する評価を把握し、今後の施策立案等の基礎資料として活用するため、アンケート調査を実施しました。

【調査の概要】

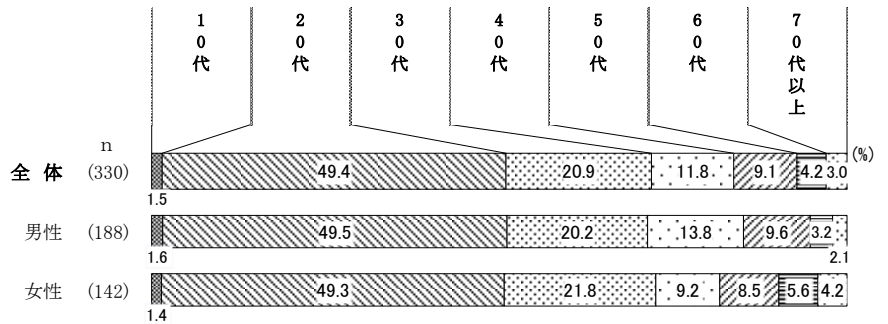
- (1) 調査対象：戸籍住民課窓口において、転入届又は転出届を提出する方
- (2) 調査方法：窓口でアンケート調査票を配布し、回収箱に投函してもらう自記式
- (3) 調査期間：令和元年8月～11月（4か月間）
- (4) 有効回収数：「転入」に関するアンケート調査 330件
「転出」に関するアンケート調査 445件
- (5) 調査項目 回答者属性
家族構成
居住地、居住年数
勤務地、通学地
住宅所有関係
転入・転出のきっかけ
転入・転出先市町村を選んだ理由
伊勢原市の住み心地、再居留意向（転出者のみ） など

1. 「転入」に関するアンケート調査の結果

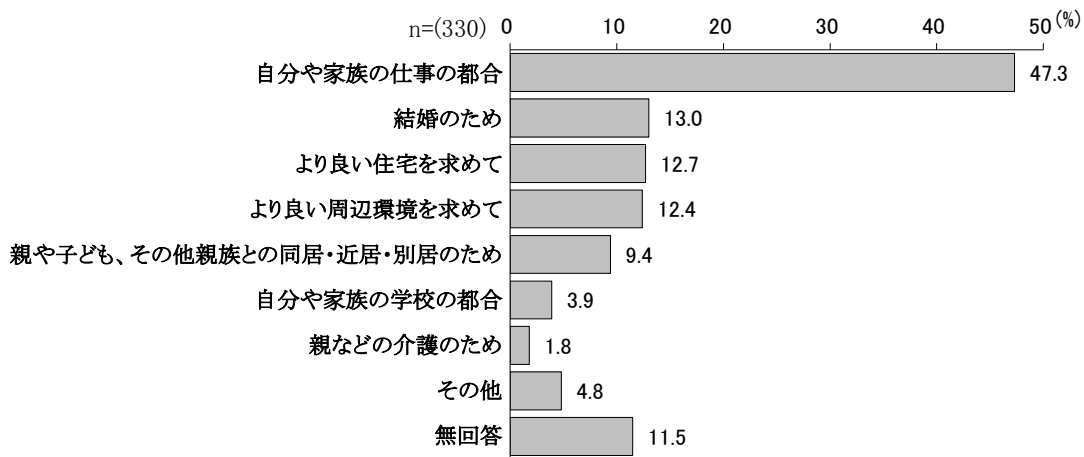
(1) 性別



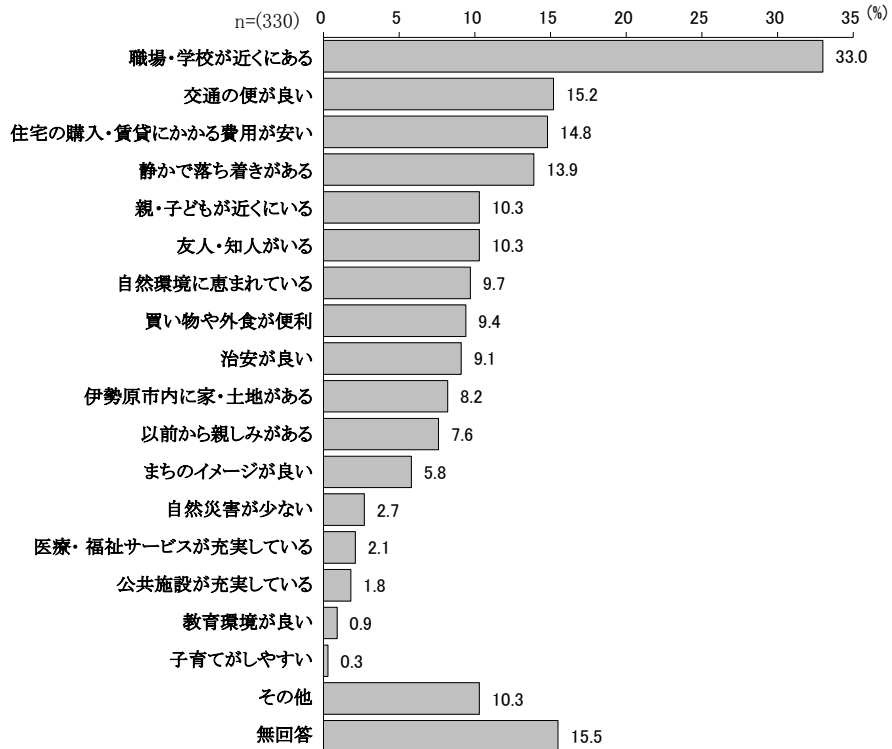
(2) 年齢



(3) 転入のきっかけ

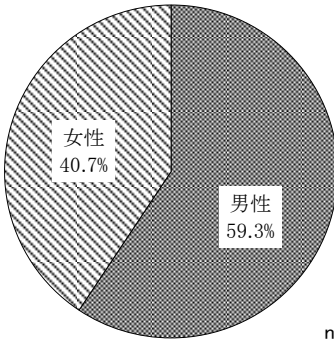


(4) 転入先に伊勢原市を選んだ理由

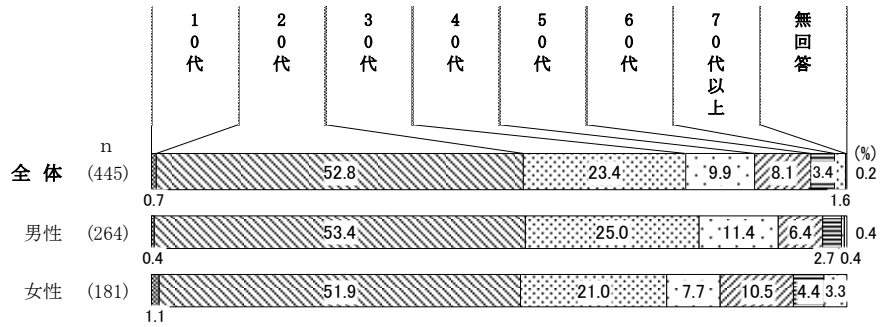


2. 「転出」に関するアンケート調査の結果

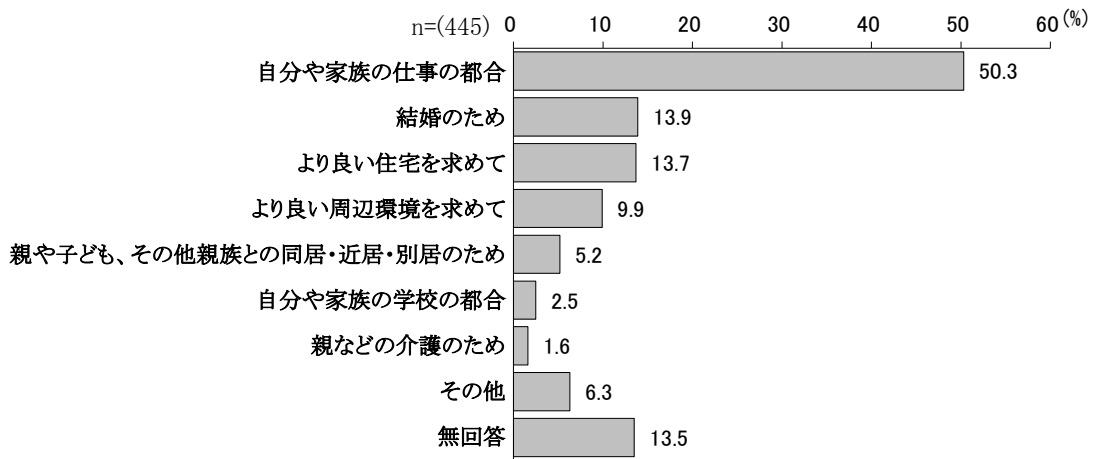
(1) 性別



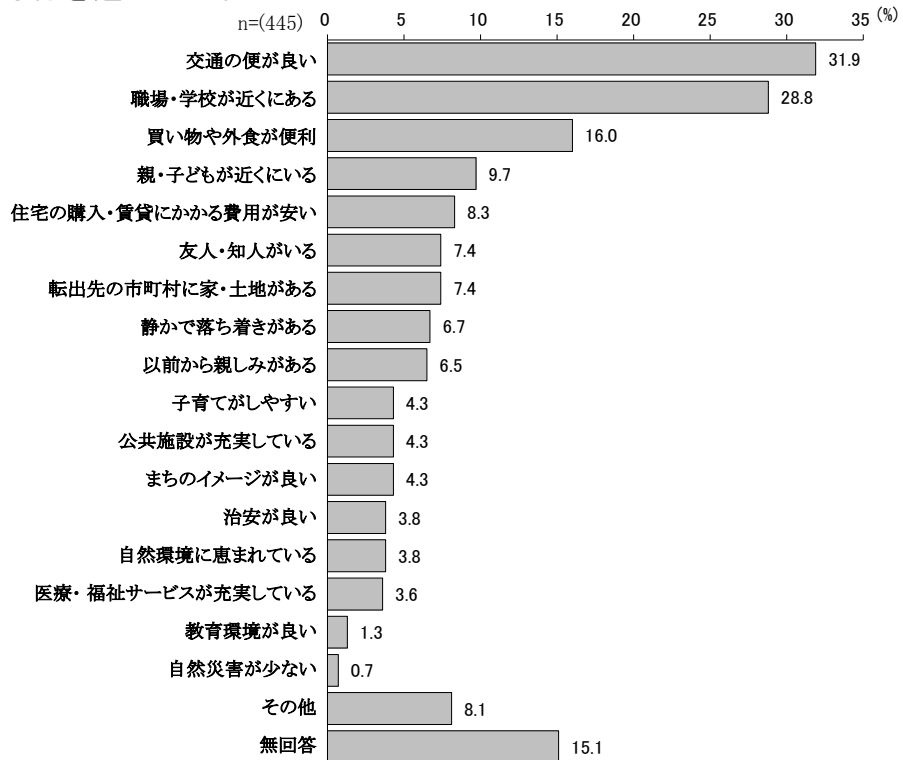
(2) 年齢



(3) 転出のきっかけ



(4) 転出先の市町村を選んだ理由



3. 調査結果の考察

(1) 本市における転入・転出状況の特徴

①年代

転入・転出者の年代を比較すると、中高年世代は、親との近居・同居や、静かで落ち着いたある住環境への志向により流入傾向にある一方、若者世代は、就職・転勤や結婚をきっかけとして、より都心に近い自治体へ流出傾向にあると推察されます。

②世帯構成の変化

転入・転出前後の世帯構成の変化をみると、進学や就職により親元を離れて転入するケースが多い一方で、結婚を機に転出するケースが比較的多いことが本市の特徴の一つとして推察されます。

③住居形態の変化

転入・転出前後の住居形態の変化をみると、若者世代が就職や転勤、通学などで一時的に本市に居住しているケースが少なくないことや、住宅購入に際して流出傾向にあること、勤務先の社宅等に入るため本市に居住していたが、退去する際に流出するケースがあることなどが推察されます。

(2) 転入・転出要因の比較

①転入・転出のきっかけ

転入・転出のきっかけをみると、就職や転勤といった仕事の都合による異動が多数を占めており、転入の促進に当たっては、第一に雇用機会の創出に取り組む必要があると考えられます。

一方、より良い住宅や周辺環境を求めた異動も一定数確認されます。

②転入・転出先市町村を選んだ理由

転入・転出先市町村を選んだ理由をみると、本市は「静かで落ち着きがある」「住宅の購入・賃貸にかかる費用が安い」「自然環境に恵まれている」と評価されていると考えられます。

一方、「交通の便が良い」「買い物や外食が便利」「子育てがしやすい」に関して、評価が低くなっています。「交通の便が良い」「買い物や外食が便利」については、転入者が本市を選んだ理由としても一定数あげられており、求める水準や比較する自治体により、評価が分かれていると推察されます。

(3) 個別分析

①子どもをもつ家庭

子どもをもつ家庭の転入・転出の理由をみると、転入の場合、「市内に家・土地がある」「住宅の購入・賃貸にかかる費用が安い」「静かで落ち着きがある」などが多くなっています。

一方、転出の場合、「子育てがしやすい」「交通の便が良い」「医療・福祉サービスが充実している」などが多くなっています。また、自由意見でも子育て支援施策や保育園の充実を望む意見などが多く見受けられます。

本市では、子育て環境づくりに施策横断的に取り組んでいるところですが、子育て支援や教育・福祉分野の充実を図るとともに、取組に関する一層の情報発信を進める必要があると考えられます。

②近隣自治体との関係性

小田急線沿線である厚木市、海老名市、秦野市、隣接する平塚市との間で、異動や人口の流入・流出が多くなっています。居住地の選択に当たっては、こうした自治体と比較・検討されていると考えられます。

転出先の自治体を選んだ理由をみると、海老名市への転出者は「交通の便が良い」「買い物や外食が便利」が、厚木市への転出者は「交通の便が良い」「職場・学校が近くにある」が、平塚市への転出者は「子育てがしやすい」「教育環境が良い」が、秦野市への転出者は「住宅の購入・賃貸にかかる費用が安い」「静かで落ち着きがある」などが多くなっています。

こうした現状を踏まえ、他自治体の行政サービスの水準や住環境を更に整理・分析した上で、弱みの克服と他市との差別化を図る必要があると考えられます。

(4) 伊勢原市への評価

①伊勢原市の住み心地・伊勢原市にもう一度住みたいか

「伊勢原市の住み心地」「伊勢原市にもう一度住みたいか」とともに、前回調査（H20）に比べ数値は向上しています。また、自由意見でも本市の総合的な住環境を評価する意見が見受けられ、これまでの市の取組は一定の成果を上げていると推察されます。

一方、「住みにくかった」「住みたくない」と回答した方の理由では、少数ながら、まちの賑わいや買い物・交通の利便性などを指摘する意見があることから、首都圏近郊ながら自然に恵まれ落ち着きがあるという本市の優位性を維持するとともに、まちの賑わいの創出や暮らしにおける利便性の向上に取り組む必要があると考えられます。